

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	総合文化教育課程
コース等名	文芸・芸能コース

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）			総合文化教育課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）		文芸・芸能コースの教育目的	
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。			1. 国際化が急速に進展するなかで、国際社会において活躍できる人材の養成を目的とする。		1. 芸術・文学・言語等の幅広い分野の専門知識を習得し、これらを応用して社会に貢献できる人材の養成を目的とする。	
総合文化教育課程文芸・芸能コースのカリキュラム			総合文化教育課程のGraduation Policy(GP)		文芸・芸能コースのGraduation Policy(GP)	
授業科目名	授業科目の主題（箇条書き） （この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書き） （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。）	1. 自分と異なる文化・社会を多面的、総合的に考え、異文化理解や交流を積極的に進め、環境問題にも関心を持ち、国際社会のさまざまな場面で活躍ができる。	2. 多様な文化と高度に進展する社会に対応して、地域文化や言語文化、芸術、メディアを通じた表現を学んで、教育や社会の幅広い場面で活動する素地を備えている。	1. 芸術・文学・言語等の幅広い分野の専門知識を学び、それらの理論や方法を用いて論理的で専門性の高い研究活動を修めている。	2. 様々な社会の場面にこれらの専門知識を応用し、修得した能力を柔軟に発揮できる。
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
言語学概論Ⅰ	1. 言語学の諸分野における重要な考え方の基礎を学ぶ。	1. 言語学上の基本概念を理解する。	1.	1.	1.	1.
言語学概論Ⅱ	1. 言語学の諸分野における重要な考え方の基礎を学ぶ。	1. 言語学上の基本概念を確認し、社会における言語の在り方についても理解を深める。	1.	1.	1.	1.
社会の中の言語	1. 言語学の基礎的な知識を理解する。 2. 人間の社会行動を言語の視点から理解する。	1. 日常生活で使用している言語の働きに興味を持つことができる。 2. 日常生活で使用される言語の働きについて分析ができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
言語と人間	1. 言語学の基礎的な知識を理解する。 2. 言語と人間の間を関係を理解する。 3. 人間の文化を言語の視点から理解する。	1. 日常生活で使用している言語の働きに興味を持つことができる。 2. 日常生活で使用される言語の働きについて分析ができる。 3. 人間の心と文化について分析ができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
言語学演習	1. 言語学の基礎的な知識を理解する。 2. 言語研究の方法論を習得する。	1. 日常生活で使用している言語の働きに興味を持つことができる。 2. 日常生活で使用される言語の働きについて分析ができる。 3. 言語研究のテーマを見つけることができる。 4. さまざまな言語現象を言語学の方法論を用いて論究できる。	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.

国語学概説（音声言語及び文章表現を含む）	1.国語学の基礎的な知識を理解する。2.国語学の方法論を修得する。	1.普段使用していることばに興味を持つことができる。 2.国語学の基本的な項目を理解することができる。 3.国語学の方法論を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学Ⅰ	1.音声学の基礎的な知識を理解する。 2.音声学の方法論を修得する。	1.普段使用していることばの音声に興味を持つ。 2.音声学の基本的な項目を理解することができる。 3.音声学の方法論を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学Ⅱ	日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく	1日本語の歴史的变化について興味を持つことができる 2日本語の歴史的变化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる 3得た知識を基に、実践・応用できる	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学Ⅰ演習	1.現代語文法の基礎的な知識を理解する。 2.現代語文法の方法論を修得する。	1.現代語の文法現象に興味を持つことができる。 2.現代語文法論の基本的な項目を理解することができる。 3.現代語文法の方法論を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学Ⅱ演習	過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べた場合の現代の日本語のあり方について考えていく	1歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる 2資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
国語学特別演習Ⅰ	1.社会言語学の基礎的な知識を理解する。	1.普段使用していることばに興味を持つことができる。 2.社会言語学の基本的な項目を理解することができる。 3.社会言語学の方法論を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学特別演習Ⅱ	1.国語学の諸相を分析する。	1.ことば全般に興味を持つことができる。 2.国語学の専門的な概念を理解することができる。 3.国語学の方法論を応用することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国語学特別講義Ⅰ	1.国語学の諸相を高度に分析する。	1.自ら国語学の研究テーマを見つけることができる。 2.国語学の方法論を応用することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
国語学特別講義Ⅱ	1.国語学の諸相を高度に分析する。	1.自ら国語学の研究テーマを見つけることができる。 2.国語学の方法論を応用することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.

哲学概論	ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。	1. ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得る。 2. ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養う。 3. ヨーロッパ文化の基礎的的理解への関心を持つ。 4. ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う。 5. ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養うこと。	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.
哲学特論	哲学ないしは倫理学の基本的な諸知識を理解し、物の考え方や人の生き方を検討する	1. 古代・中世・近代の哲学ないしは倫理学の大きな流れを理解する。 2. 物の考え方や人の生き方を議論するための哲学的問答法を理解する。 3. 現代社会における物の考え方や人の生き方の特徴を理解する。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学概説(国文学史を含む)	1. 古事記という書物の意味を理解させる。 2. 古代文学の様相を理解させる。	1. 古事記について興味を持つことができる。 2. 神話の解釈を理解することができる。 3. 古事記への解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学I	1. 古典文学作品として狂言台本を読み解く。 2. 演劇としての狂言について、ビデオ映像も利用しつつ、語り、講ずる。	1. 笑いの演劇としての狂言への関心と理解を深める。 2. 狂言台本の読解を通して、古典文学の読解の方法を学び、読解力を高める。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
国文学II	1. 小説分析のための基本的概念と方法を提示する。2. 小説を、内容、素材、形式の相互関連において分析し把握する。3. 小説分析の結果を文章に表現する。	1. 文学研究に興味を持つことができる。 2. 文学研究の基本的課題を理解することができる。 3. 文学研究の基本的課題を自分の問題として考えることができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学I演習	1. 古文を理解させる。 2. 枕草子の文学的な意味を理解させる。	1. 枕草子について興味を持つことができる。 2. 枕草子を理解することができる。 3. 枕草子の文章への解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学II演習	『おくのほそ道』の演習を通して、古典文学作品に親しむとともに、古典文学研究の基礎的技法を習得する。	1. 古典文学に興味・関心を持ち、理解することができる。 2. 古典研究の基礎的技法を体得し、実践指導に応用することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
国文学購読	『去来抄』の講読を通して古典文学の評論に親しむとともに、古典文学研究の基礎的技法を習得する。	1. 古典文学に興味・関心を持ち、理解することができる。 2. 古典研究の基礎的技法を体得し、実践指導に応用することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
国文学特別演習I	1. 狂言を理解させる。 2. 狂言の文学史的な意義を理解させる。	1. 狂言について興味を持つことができる。 2. 狂言を理解することができる。 3. 狂言の解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学特別演習II	1. 能や狂言を理解させる。 2. 能・狂言の内容を文学史的に把握する。	1. 中世演劇について興味を持つことができる。 2. 中世演劇を理解することができる。 3. 中世演劇の解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.

国文学特別講義Ⅰ	1. 説話文学について具体的に理解させる。 2. 説話文学を中心とした文章の読解力を培う。	1. 説話文学について興味を持つことができる。 2. 説話文学を理解することができる。 3. 説話文学の解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
国文学特別講義Ⅱ	1. 伝承文学のジャンルを理解させる。 2. 説話文学や伝承文学の内容を把握させる。	1. 伝承文学について興味を持つことができる。 2. 伝承文学を理解することができる。 3. 伝承文学の解釈を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
文芸風土実習	研究課題に基づき、実地調査を計画実行する。	1. 研究課題に興味・関心を持ち、理解することができる。 2. 調査結果をまとめ、実践指導に応用することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
漢文学概論	中国古代の思想をテーマを絞って概説する。	1 中国古代思想に興味をもつことができる。 2 中国古代思想を理解することができる。3 中国古代思想を学ぶことで得たことを、現実の場で活用できる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
漢文学講読	主に中国漢文の、基本的な読解方法と基礎的な知識を、焦点を絞って、習得させる。	1 漢文について興味をもつことができる。 2 漢文の内容を理解することができる。 3 漢文読解により得た知識を応用できる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
漢文学演習	中国古典資料を選読する。特に、資料調査力のレベルアップを図る。	1 中国古典資料に興味をもつことができる。 2 中国古典資料を理解できる。 3 中国古典の調査・読解して得たことを、現実の場に活用できる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
英米文学史Ⅰ	1. 英文学の歴史を概観する。 2. 様々な時代背景の中から、様々な文学が生まれ、発展し、受け継がれていくさまを見ていく。 3. 主要な作品の文学思想に重点をおいて説明する。 4. 表面的理解にならないよう、古典的な作品を読みレポ - トしてもらう。	1. 各時代の歴史的背景と文学的特徴の関連性を理解する 2. 多様な文学に対する理解を深める。 3. 歴史的な時代の思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 4. テキストに出てくる古典的な作品の一つでも多く手にとって読めるようにする。 5. 歴史的な流れに沿って多くの人名や作品名が登場するので、自ら継続的に学ぶ態度が必要である。 6. 各時代・文人・作品・専門用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6
英米文学史Ⅱ	1. 英文学の歴史を概観する。 2. 様々な時代背景の中から、様々な文学が生まれ、発展し、受け継がれていくさまを見ていく。 3. 主要な作品の文学思想に重点をおいて説明する。 4. 表面的理解にならないよう、古典的な作品を読みレポ - トしてもらう。	1. 各時代の歴史的背景と文学的特徴の関連性を理解する 2. 多様な文学に対する理解を深める。 3. 歴史的な時代の思想の流れや多様な文学に対して、比較し批評する観点を育成する。 4. テキストに出てくる古典的な作品の一つでも多く手にとって読み、関心を深めるようにする。 5. テキストに出てくる古典的な作品の一つでも多く手にとって読めるようにする。 6. 各時代・文人・作品・専門用語等の理解と簡潔な説明ができるように努力する必要がある。	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6

<p>欧米文学演習</p>	<p>1. 欧米の文学作品を分析的・批判的に分析する。 2. 自分が調査・分析した成果を発表し、まとめる。</p>	<p>1. 文学テキストの解釈に際して、書かれている記述内容と言語表現を吟味し、的確に理解することができる。テキストを理解するために必要と考えられる歴史的背景等の事実を調査することができる。 2. テキストの特異性を見出し、その固有の価値を説明することができる。また、テキストについて自己との関わりにおいて考察を巡らし、その考えを整理して、論理的な文章にまとめることができる。 3. 文学的テキストを読み、味わい、思索することに喜びを見出す。 4. テキスト解釈の前提となる知識（言葉の意味、歴史的事実、関連する文献など）をこつこつ丹念に調べる。 5. 内容の解釈を踏まえた翻訳ができる。自分の考えと、他人から借りてきた考えをはっきり区別して論述ができる。独自の観点から、かつ客観的に、テキストを解釈・分析することができる。</p>	<p>1. 2. 3. 4. 5.</p>	<p>1. 2. 3. 4. 5.</p>	<p>1. 2. 3. 4. 5.</p>	<p>1. 2. 3. 4. 5.</p>
<p>英国演劇演習</p>	<p>1. 紀元前のギリシアに既に現代人が及びもつかないすぐれた悲劇が存在していたことを知る。2. ギリシア・ローマ古典劇等を礎にシェイクスピア劇が存在することを理解する。3. シェイクスピア劇が現代でも盛んである所以を理解する。4. 演劇に関心を持ち、感応する感性を養う。</p>	<p>1. 古代ギリシアに既に現代人が及びもつかない優れた悲劇が存在していたことを知っている。2. シェイクスピアに到るまでの世界の演劇の流れをおおまかに知っている。3. シェイクスピア作品に親近感を抱けるようになっている。4. 以前より演劇一般に興味を持つようになっている。</p>	<p>1. 2. 3. 4.</p>	<p>1. 2. 3. 4.</p>	<p>1. 2. 3. 4.</p>	<p>1. 2. 3. 4.</p>
<p>英米文学特演</p>	<p>1ともかくも自分の力で論文を仕上げる態勢を養う。</p>	<p>1. 自分の力で論文を書き上げるための大体的手順と方法を知っている。</p>	<p>1.</p>	<p>1.</p>	<p>1.</p>	<p>1.</p>
<p>美術理論</p>	<p>西洋における過去の美や芸術の理論の流れ、美術史学の成立までの歴史的流れを理解する。</p>	<p>1. 過去の美や芸術に関する思想について興味をもつことができる。 2. 美や芸術の概念について、考察し理解できる。 3. 美や芸術に関する基本的な考え方を理解できる。</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>
<p>美術史I</p>	<p>西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて理解する。</p>	<p>1. ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。 2. 各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 3. 西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>
<p>美術史II（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）</p>	<p>日本美術史、とくに日本の世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点を理解する。なお 日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。</p>	<p>1. 日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。 2. 各時代に生まれた絵画作品の歴史的な位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 3. 日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>	<p>1. 2. 3.</p>

美術史実習	古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、理解する。	1. 印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。 2. 実地にその場を訪れることにより、その周辺、あるいは副次資料をもふくめた上で、作品の考察に役立てる。 3. 実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。 4. 鑑賞に対する積極的な態度を期待する。	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.
美術史演習	美術史に関する個々のテーマを設定し、その自主研究内容を発表形式で行い、全体で討議し、その内容を理解する。	1. 他のゼミ生の発表を吟味することによって、美術史全体に対する自らの知識と理解を深める。 2. 自らの研究テーマを練った上で発表を行い、他のゼミ生との討論を通して、自らの思考、判断の妥当性を考察する。 3. 自らの関心の分野に対する認識をさらに深めるとともに、美術史全体に対する興味も喚起する。 4. 研究テーマについては、常に既存の論理の妥当性、信頼性を自らの眼と頭で再検討してみる。	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.	1. 2. 3. 4.
音楽史I(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)						
音楽史II						
音楽学概論						
音楽学演習						
芸術表現論	芸術を体験することによって、机上では学ぶことのできない表現法を修得する。	1.芸術表現について興味を持つことができる。2.様々な表現法を体験することができる。3.自ら進んで表現することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
書道I	1.毛筆による書写を実践する。	1.書道について興味を持つことができる。 2.毛筆による書写を理解することができる。 3.毛筆による書写を応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
書道II	1.楷書を実践する。	1.楷書について興味を持つことができる。 2.毛筆による書写、特に楷書について理解することができる。 3.毛筆による書写、特に楷書について応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
書道III	1.行書を実践する。	1.行書について興味を持つことができる。 2.毛筆による書写、特に行書について理解することができる。 3.毛筆による書写、特に行書について応用・実践することができる。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.

書道Ⅳ	1. 仮名書きを実践する。	1. 細筆による仮名書きについて興味を持つことが出来る。 2. 毛筆による書写、特に仮名書きについて理解することが出来る。 3. 毛筆による書写、特に仮名書きについて応用・実践することが出来る。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
映画史Ⅰ	1. 世界に開かれた/世界を開いたマス・メディアとしての映画の特性をふまえつつ、日本における映画の歴史を俯瞰する。	1. 日本における映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得する。	1.	1.	1.	1.○
映画史Ⅱ	1. 20世紀の世界を席巻した演劇の新しい存在形態としての特徴をふまえつつ、世界における映画の歴史を俯瞰する。	1. 世界の映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得する。	1.	1.	1.	1.○
映像論演習	1. できる限り多様な映画作品を具体的に参照しつつ、その理論と技法の分析をおこなう。	1. 映像表現を研究の対象として扱うにあたって最低限必要な映画のリテラシーを獲得する。	1.	1.	1.	1.○
映像表現論	1. 映像表現に関わる受講者それぞれの関心と問題意識に応じて参考文献を講読したうえで、受講者各自における課題を展開する。	1. それぞれの関心と問題意識に応じて、映像表現に関わる各自の課題を見出し、展開する。	1.○	1.	1.	1.
映像論表現特論	1. 受講者自身による問題提起を学術論文にふさわしい体裁に収斂させるための、題材に応じた受講者各自の文章力を鍛錬する。	1. 映像表現を分析し、記述する能力と技術を習得する。	1.○	1.	1.	1.
卒業研究	言語・哲学・文学・美術・音楽・映像の各分野において卒業研究を作成・発表する。	1. 言語・哲学・文学・美術・音楽・映像の各分野において卒業研究を作成する。 2. 研究成果を発表する。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
G P 項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）						
総合的 G P 到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）						